

- 大分県南部では、食味の良い「不知火」が多く栽培されているが、全国的な出荷量増加に伴い、「不知火」のなかでも、**糖度13度以上、クエン酸含量1%以下の基準を満たした「デコポン」が好まれる**ようになってきた。
- そこで、これまでの1月～2月を中心にした早出し出荷から**3月～4月まで樹上で完熟させる完熟出荷に取り組む**ことで差別化を図り、その結果、**市場からの評価も高く、高単価で取引**された。

具体的な成果

1 販売単価の向上

- 販売価格は、1～2月に通常出荷する場合と比較して、3月出荷で1.5倍、4月出荷では2～3倍の高単価で推移

(単位：円/kg)

出荷時期	H19	H21	H22	H23
1～2月出荷	120	129	217	200
3月出荷	282	227	265	257
4月出荷	-	386	368	396

2 完熟栽培農家数の増加

- 県南の果樹技術者に、見込まれる**品質や単価の向上**を説明し、推進の意思が統一

- 実証圃設置による試験生産と講習会の実施**による生産者への周知徹底

○完熟栽培農家数の推移

(H18年 → H23年)

完熟	12名	→	29名
超完熟	0名	→	22名



技術者間協議



講習会による周知

3 超完熟デコポン(4月出荷)の商品化

- 4月出荷の超完熟デコポンを、開花から約330日で収穫することにちなんで、「デコ330」とネーミングし、独自の販売を開始した。**市場や消費者からの食味評価は非常に高く**、今後も生産量を拡大する予定である。

普及指導員の活動

平成18年度

- 推進方針の決定

- ①管内各地区の生産者代表と連携し、柑橘の**全国市況の分析と市場調査**
- ②農協、市役所、県の果樹技術者により組織された県南果樹技術者連絡協議会で、「不知火」の**完熟栽培の推進を決定**。

平成19年度

- 完熟デコポン生産プロジェクトチーム結成

- ①**関係機関でプロジェクトチームを結成**し、完熟栽培に向けた問題点をピックアップし、解決方法について協議を重ねる。

平成20～21年度

- 完熟デコポン実証圃の設置

- ①果実の水腐れと鳥害による青果率の低下を解決するため、試験場と連携し、**水腐れの発生原因を明らかにするとともに、各種雨よけ資材を用いた現地実証圃を設置した**。

平成22年度～

- 生産者への動機付けと普及推進

- ①**研修会を開催し、水腐れ対策完熟栽培に取り組んだ場合の試算などを説明**し、生産者の理解を深め、**普及を図った**。

普及指導員だからできたこと

- ・高度な専門技術を有する普及指導員だからこそ、**完熟栽培の新技术を地域に導入することができた**。

- ・高いコーディネート力を持つ普及指導員だからこそ、**関係者を結びつけ、新たな販売戦略を進めることが可能**。

1. 取組の背景

大分県南部では、海岸部を中心に柑橘栽培が盛んであり、特に「不知火」が多く栽培されている。「不知火」は、食味が良く手で剥け袋ごと食べられるなど、現代の消費者ニーズにマッチした柑橘であり、主に2月～3月に出荷される。温暖な県南地域では、開花期の早さを生かして出荷量の少ない1月～2月に早出し出荷を行うことで「不知火」を有利販売してきた。



デコポンの風呂敷栽培

しかし、全国的な「不知火」の出荷量増加に伴い「不知火」のなかでも、糖度13度以上、クエン酸含量1%以下の基準を満たした「デコポン」が好まれるようになってきた。

そこで、これまでの1月～2月を中心にした早出し出荷から3月～4月まで樹上で完熟させる完熟出荷に取り組むことで、食味と出荷時期による差別化を図り、新たに露地完熟デコポンの産地確立を目指した。



新たな産地戦略

2. 活動内容（詳細）

（1）推進方針の決定

管内各地区の生産者代表と連携し、柑橘の全国市況の分析と市場調査を行ったところ 3,4月は柑橘の出荷量が減少していくものの、需要は高く、3,4月に良品質果実を 出荷することにより、高単価が狙えることが期待された。そこで、JA、市、県の果樹技術者により組織された県南果樹技術者連絡協議会（以下、県南果技協という）で、「不知火」の完熟栽培を推進することにした。

（2）完熟デコポン生産プロジェクトチームの結成

県南果技協を母体としたプロジェクトチームを結成し、3月～4月まで「不知火」を完熟させ、安定して「デコポン」として出荷するための問題点をピックアップするとともに解決方法について協議を重ねた。

(3) 完熟デコポン実証圃の設置

完熟デコポンの試験栽培を行ったところ、果実の水腐れと鳥害による青果率の低下が問題となった。そこで、試験場と連携し、水腐れの発生原因を明らかにするとともに、鳥避けを兼ねた各種雨よけ資材を用いた現地実証圃を設置した。

2. 活動内容

「水腐れ症の対策」



- 水腐れ症の発生原因を周知した。
- 果皮強化の葉面散布剤を講習会で指導。
- 老化防止の植物調節剤を個別に指示。

水腐れ症に対する対策

(4) 生産者への動機付けと普及

生産者向けの研修会を開催し、雨よけ資材を利用した完熟栽培の紹介及び設置方法の実演や完熟栽培に取り組んだ場合の試算などを説明し、生産者の理解を深めるとともに完熟栽培の普及を図った。

3. 具体的な成果（詳細）

(1) 完熟デコポン栽培管理暦の作成

現地実証圃の結果に基づき、効果的な雨よけ資材を選定した。また、新規に登録された植物調節剤の現地実証を行い、水腐れ軽減効果を確認した。

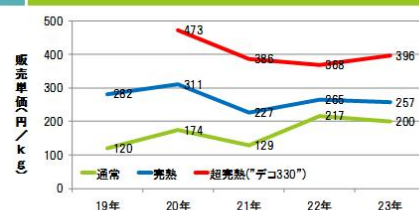
さらに、プロジェクトチームでの試験成果に基づき、栽培管理暦を作成し、生産者に配布することで、技術レベルの高位平準化を図った。

(2) 完熟デコポンの出荷販売状況

平成18年産から完熟（3月）出荷を開始し、平成20年産からは、より完熟させた超完熟（4月）出荷を開始した。販売価格は、1～2月に通常出荷する場合と比較して、3月出荷で1.5～2倍、4月出荷では2～3倍の高単価となっている。

3. 成果

「販売単価の向上」



○完熟化で販売単価を向上させることができた。

平均単価の推移

(3) 完熟デコポンの栽培農家数の増加

販売単価の向上に伴い、栽培農家数も平成18年産以降増加している（22年については発芽時期に霜害を受けたため着果量が減少し、完熟栽培農家数は減少）。

表1 完熟デコポンの出荷農家数

	18年産	19年産	20年産	21年産	22年産
完 熟（3月出荷）	1 2	1 3	3 5	6 0	2 9
超完熟（4月出荷）	0	0	3	1 8	2 2

（4）超完熟デコポン（4月出荷）の商品化

4月出荷の超完熟デコポンを、開花から約330日で収穫することにちなんで、「デコ330」とネーミングし、独自の販売を開始した。市場や消費者からの食味評価は非常に高く、今後も生産量を拡大する予定である。

4. 農家等からの評価・コメント（佐伯市海崎 簗河原氏）

水腐れが多発した経験から、ビニールで雨よけをする「デコ330」に取り組むようになった。おかげで水腐れを減らせたのもうれしいが、4月まで樹上で完熟させることで、デコポンの味が絶品になるのが良い。どこへ出しても、自信を持って美味しいといえるデコポンができる。

うちの産地は面積が小さいため、徹底的に作り込むことしか、大産地に対抗できない。「デコ330」は、もってこいの方法である。

5. 普及指導員のコメント（大分県南部振興局 技師 小手川亮平）

県南地域の特性を最大限に生かすことで、完熟デコポンに取り組むことができた。この取り組みは、生産者の所得向上だけでなく、技術的な自信にもつながっており、産地に良い影響を与えることができた。超完熟「デコ330」は、市場や消費者からの評価が高いため、より一層の生産拡大支援を続け、産地の顔にしていきたい。

6. 現状・今後の展開等

（1）完熟デコポン生産技術の確立

翌年の着花が不安定な場合があるため、適正な着果量を解明する。

（2）専門研究会の設立

完熟栽培の生産技術の向上を図るため、生産者の組織化をすすめる。

（3）産地の拡大

完熟デコポンの栽培適地において「デコ330」の生産拡大を図る。